

## コミュニティワゴン試行運行の評価

試行運行 ルート	現状（平成27年度基準）	試行運行から分かったこと	
		評価できる点	問題点
青柳ルート	利用者数：12,535人（1,851人増）、一般運賃者割合：25.6%、運行経費：10,018,650円（1,053,868円減）、収入額：1,364,350円（87,550円増）、収支率：13.6%、営業係数：734、財投入額690円／人（利用者1人当りの負担額）、バス停利用状況（多い順）：乗車（矢川駅、緑川、武蔵野の路）・降車（矢川駅、緑川、青柳南アパート東）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H25度の「くにっこ」の利用者数と比べ、2,326人（22.7%）増えていることから交通不便地域の解消には一定の効果があったと考える。</li> <li>・他のルートと比べ一般運賃以外の割合が高いことから、高齢者の外出支援になっているものと考え。</li> <li>・バス路線がない青柳地域には矢川駅発着の需要が一定数あることが確認できた。</li> <li>・緑川（西友前）のバス停利用が多いことから買い物などの生活支援になっていると考える。</li> <li>・平成28年度は、平成27年度の利用者増を考慮すると、1日当たり約48人となる。・「くにっこ」青柳・泉ルート運行時と比較して利用者は少ないが収入は344,376円（青柳・泉合算値）の増になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終日30分間隔での運行にしたものの誘発的な需要は少なかった。</li> <li>・福祉会館への需要は極めて少なかった。（途中廃止）</li> <li>・移動制約のある高齢者には自宅から停留所、又、降車後に目的地まで歩かなくてはならない定時定路線型での対応は難しい。</li> <li>・シルバーパスがあることから、高齢者は「くにっこミニ」の有料の運賃に対する価値を見出せないものと思われる（徒歩あるいは自転車利用で済んでしまう）。（3ルートとも同じ）</li> <li>・目標値に比べ収支率が低く、営業係数高い</li> </ul>
泉ルート	利用者数：6,530人（1,098人増）、一般運賃者割合：36.0%、運行経費：10,760,603円（145,551円減）、収入額：787,450円（75,750円増）、収支率：7.3%、営業係数：1,367、財投入額1,527円／人（利用者1人当りの負担額）バス停利用状況（多い順）：乗車（矢川駅、ママ下湧水公園、河川敷公園）・降車（矢川駅、河川敷公園、南市民プラザ入口）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泉三丁目から市役所へのアクセスには一定の役割を果たしたと考えられるが、圧倒的に利用が多かったのは、矢川駅停留所であった。</li> <li>・「くにっこ」青柳・泉ルート運行時と比較して利用者は少ないが収入は344,376円（青柳・泉合算値）の増になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「くにっこ」泉ルートと比較して利用者が約60%の減になっている。</li> <li>・福祉会館で乗り換える利用がほぼ見られなかった。</li> <li>・移動制約のある高齢者には自宅から停留所、又、降車後に目的地まで歩かなくてはならない定時定路線型の交通での対応は難しい。</li> <li>・目標値に比べ収支率がかなり低く、営業係数がかなり高い</li> </ul>
矢川・東ルート	利用者数：7,142人（1,277人増）、一般運賃者割合：37.6%、運行経費：10,223,090円（1,305,830円減）、収入額：814,350円（81,350円増）、収支率：8.0%、営業係数：1,255、財投入額1,317円／人（利用者1人当りの負担額）バス停利用状況（多い順）：乗車（大学寮東、第三団地（東行）、谷保駅北（東行））・降車（総合医療センター南、多摩蘭坂、谷保駅北（矢川行））	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の12.5%が無料の利用者であり、一般の利用も多いことから、未就学児連れの方の利用が比較的多いと考える。</li> <li>・総合医療センター南や多摩蘭坂停留所の利用が多いことから、病院への利用者が多いと考える。</li> <li>・谷保駅北停留所の利用者が多いことから、谷保駅周辺や駅アクセスに利用していると考え。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉会館で乗り換える利用があまり見られなかった。</li> <li>・総合医療センター内へのアクセスの要望が多かったが、関係機関の理解が得られなかった。</li> <li>・目標値に比べ収支率がかなり低く、営業係数がかなり高い。</li> <li>・移動制約のある高齢者には自宅から停留所、又、降車後に目的地まで歩かなくてはならない定時定路線型の交通での対応は難しい。</li> <li>・矢川団地の建替え工事中であったことから、利用に影響があったと考えるが、将来戸数は現状とあまり変わらない。</li> </ul>